学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年10月30日
第40号

近藤琉唯斗くん　静かな闘志で飛躍を誓う

ドラフト会議オリックス４位指名から一夜明け、近藤くんが現在の心境を語った。

一夜明けて、どんな心境ですか。

「まだ、実感がわきませんが、夢がかなってうれしい反面、闘争心も湧いてきました。オリックスには大学生の角田楓斗さん（１位指名、富士大学）、仲井慎さん（２位指名、駒沢大学）がいるので、その背中を見て学びたいです。育成１位には黒川凌大さん（花咲徳栄高校）もいます。

いつものように島松６時17分発の列車で登校したのですか。

「はい。昨夜は祝福のメッセージが百くらい届きました。仲間の期待に応えたいです。」

小森桜暉くん（札幌日大高校３年、左翼手、甲子園出場）からも連絡が来ました？

「小森くんは恵庭出身で野球を始めるきっかけを作ってくれた人です。（彼は大学に進学するので）「４年後、待っているぞ」と返信しました。」



南北海道大会（函館）で投げる近藤琉唯斗くん

小森くんは恵庭シニア、近藤くんは豊平東シニアでしたね。

「はい、小森くんとライバル対決したかったから。また、豊平東シニアには知り合いがいて、体験して決めました。このチームは指導者と選手の関係性が良く、話ができる環境で、他方、選手の自立を促し、人間性を高め、継続する力を身に付けることができました。」

双葉高校を選んだのは？

「高校の監督から声がかかり、体験に行って、先生と面談して決めました。入学してから自分でも努力しましたが、指導者との信頼関係、他の人の支えもありました。

小樽支部には北照高校というライバルがありますね。

「はい。絶対倒さないと、その上はない。全国から選手を集めています。「負けたくない」と思って頑張ってきました。島田爽介くんのコントロール、中谷嘉希くんのスピードに良い刺激をもらいました。２年秋に完封されたことで闘争心に火がつきました。でもその試合で、１４８キロ出ていたことがわかり、自分でも驚きました。１５０キロ台でないとプロには行けないと思い、長谷川先生との約束を思い出しました。誰にも負けたくない。北海道選抜に選ばれたいと思いました。」



日々、投球練習に励んでいる

表には出ないようですが、負けず嫌いですね。

「はい。ここから自分の心と身体で勝負しようと決めました。」

今はどんな練習をしていますか。

「独学でスプリットを練習しています。いずれはフォークも。落差は出てきていますが、対人で試したいです。そして、体重を増やし体を作ります。」

佐々木朗希投手を目標にしているそうですね。

「体を自由に扱える。それをピッチングで体現している投手です。有言実行の姿勢がいい。柔軟体操に一時間かけていると聞きます。コーチとマンツーマンで投球に磨きをかけています。」

抱負を聞かせてください。

「昨日の自分よりも成長している自分になりたい。どんどん進化したい。野球を通しての未知の人々との出会いを楽しみにしています。」

仲間からの祝福
負けん気の強さ活かして

中山尚大くん（３－２）

近藤くんは仲間思いで頼もしいピッチャーです。プロ選手になってほしいと願っていたので、球団の指名を受けて皆、ほっとし、また誇らしく思いました。プロの世界は厳しいので、きっと苦しいこともあると思います。近藤くんはあまり表情には出さないけれど、負けん気の強さは人一倍あります。彼らしく頑張ってほしいと思います。

エスコンで投げる姿見たい

田中　空くん（３－２）

オリックスはパリーグなので日本ハムとの対戦をなるべく早くエスコンで見たいです。

夏の南北海道大会ベスト８、ドラフト会議の実況中継と人生で貴重な経験をさせてもらい感謝しています。

一緒にプレー、貴重な経験

鹿嶋篤己（２－２、野球部主将）

ドラフト会議の実況中継は感じたことのない雰囲気と緊張感がありました。近藤さんはチームのエースとして中心になって活躍してくれた人です。今年の夏に一緒にプレーできたのは貴重な経験となりました。

僕たちも琉唯斗さんが胸を張れるチームになれるよう頑張ります。